

新

成人1,870人が大人の仲間入り 平成27年西尾市成人式

平成27年西尾市成人式が1月11日、総合体育館で行われました。会場には、スーツや振り袖など華やかな衣装に着飾った新成人たちが集結。久しぶりに再開した友人と手をとって喜び合ったり、記念写真を撮ったりして楽しんでいました。式典では、景品が当たる抽選会や、目標を書いた紙を手にした新成人の写真が次々と映しだされるスライドショーなどが行われ、会場は拍手と歓声に包まれていました。最後に、山崎健二郎実行委員長が「大人としての自覚を持ち、プライドを持って生きていきたい」と決意を述べ、大人としての第一歩を踏み出しました。



半

世紀にわたる歴史と伝統 第50回記念一色マラソン大会

第50回記念一色マラソン大会が1月25日、一色町体育館周辺で行われました。今回は記念大会ということで、旭化成陸上部総監督の宗猛さんがスペシャルゲストとして、シドニーオリンピック男子マラソン日本代表の佐藤信之さん、アイドルグループ「OS☆U」の森咲智美さんと成瀬未佳さん、昨年の全国高校駅伝優勝校の豊川高校で4区を走った一色町出身の榊原海紗さんがゲストランナーとして招待されました。全国各地から3,443人が参加し、遠くは宮城県からの参加者もいました。マラソン日和の中、参加者は沿道から送られる温かい声援を受けながら、三河湾を望む海岸線を懸命に、そして楽しそうに走っていました。



三

河湾の黒真珠と里山の環境を守りたい 黒壁運動&里山づくり

佐久島の景観や里山の環境を守る活動「黒壁運動&里山づくり」が2月1日、佐久島で行われました。佐久島は潮風から家屋を守るため、壁が黒く塗られていることから「三河湾の黒真珠」と呼ばれ、黒壁運動はその景観の保存のため「島を美しく作る会」を中心に続けられている活動です。今年は弁天サロンやおひるねハウスなどが丁寧に塗り直されました。また、小・中学生を中心に、枯れてしまったツバキの苗の植え替えや、苗木への施肥など、里山づくりの活動も行われました。寒風が吹く中、参加した約150人のボランティアは楽しそうに活動し、心地よい汗を流しました。



1/18 市文化事業 菊地幸夫講演会
「菊地流 魅力的人生のススメ」

一色地域交流センターで開催。孤独死問題について、地域の中で交流を持ち、役割を持つことが孤独にならない近道と語り掛けていました。



1/20 文化財防火デーに伴う
防火訓練

大提灯まつりで有名な一色諏訪神社で開催。放水訓練や、地域住民と小学生による消火器取り扱い訓練などが行われました。



1/24 ^{よこほり}みどり川四九朝市24周年行事

新鮮な野菜や農産物、掘り出し品などを求め、多くの方でにぎわいました。おしるこやそばの無料サービス、抽選会には行列ができました。



1/25 市子ども会大会

文化会館大ホールで開催。表彰・活動発表後に行われた八ツ面小マーチングバンド部の演奏、D.O.Mのダンスパフォーマンスには大きな拍手が送られていました。



今月の表紙

1月25日に行われた第50回一色マラソン大会。総勢3,443人のランナーが参加しました。写真はハーフマラソンを撮影したものです。これから、20kmもの長い距離を走り抜くためスタートした、たくさんの方々のランナーたち。皆、真剣な表情で走り始めました。

編集 雑記

今号の「表紙」と「まちの話題」に掲載した一色マラソン大会の取材に行ってきました。記念すべき第50回大会ということで、多くの著名なゲストをお迎えし、大会は大いに盛り上がりました。今後も55回、60回とさらなる飛躍が期待されます。私事ですが「走る」ことに関しては、2年ほど前までは正直、その良さが分かりませんでした。しかし、一昨年、西尾駅伝に選手として出場してから「走る」ことの良さが少しずつ分かってきた気がします。走った後は爽快ですよ。(新)



虫採集に出掛けよう

名和昆虫博物館 名和哲夫氏講演会

日本最古の博物館である名和昆虫博物館(岐阜県岐阜市)の5代目館長、西尾市出身の名和哲夫氏の講演会が2月8日、西尾市立図書館で行われました。網を手に、チョウの本格的な捕獲方法を紹介しながらユーモアを交えて講演。



「昆虫採集を否定していたが、25歳のときミヤマカラスアゲハを採集して、チョウの魅力に引き込まれた」「皆さんもぜひ昆虫採集に出掛けてみてください。自然の素晴らしさを知ることができます」と聴講者に語り掛けていました。



夜を切り裂く紅蓮の炎

鳥羽の火祭り



1,200年の伝統を誇り、国指定重要無形民俗文化財である鳥羽の火祭りが2月8日、鳥羽神明社で行われました。昼間は2人の神男と、約90人の奉仕者が、海に入って身を清める「みそぎ」を鳥羽海岸で行いました。夜になり、高さ5m、重さ2トンの巨大な2基のすずみが、火打ち石で点火され、大きな炎に包まれると、祭りはクライマックスに。福地と乾地の2地区に分かれたネコと呼ばれる奉仕者たちが、すずみの中から神木と十二縄を取り出すため、燃え盛る炎に競って飛び込むと、境内いっぱいに集まった観客からは、その勇姿と迫力に歓声が沸き起こっていました。

